文化的に視た現代の衣服

深作光貞
奈良女子大学

Clothing and Culture Today

Mitsusada FUKASAKU
Nara National Women's College, Nara-shi, Japan

ドイツ語の文化の意味は、たとえば真善美のような、精神的に高度なものを指しますが、英語での文化の意味は、Way of Life です。つまり、生活のやり方です。これを日本では「生活様式」と訳しています。私は、この後者の意味の“文化”を考えて、これから述べてゆきます。

現代文明の最大の特徴は何か—— まず、“食”をみてみます。人間以外の動物は、見つけた食料をすぐ口にします。口と直結しているわけです。ところが人間は、見つけた食料を、切ったり・アクを抜いたり・干したり・漬けたり・煮たり・焼いたり・味つけしたり・保存したり……口に入れるまで、さまざまなことをします。いいかえれば、見つけてから口に入れるまで、さまざまな過程を通します。この過程が長い間の人間文化です。

ところが現代文明にあっては、この過程をサービス企業がみんなやってくれ、買って来たものはすぐ食べられるようになっています。ナマ魚にせよ、ちゃんと切ってあって、マナ板で頭を切り落したり、はらわたを出さなくてもよくなっています。インスタントものは言うまでもありません。

“衣”も同様です。昔は、布を買って来てそれを着るまでに、裁ったり・縫ったり・裏地をつけたり・刺繍をしたり……さまざまな過程を通しました。また、出来上がったものを着るにも、着つけや着こなしなどの技術が必要でした。

ところが現代文明にあっては、自分の好みとサイズにあったものを買って来て身につければそれですんでしまうような縫製服ばかりです。いいかえれば、裁ったり縫ったり一切せずに衣服とは買って着るもの。着

つけ・着こなしの苦勞が一切いらない衣服です。

ここで想起するのは、生物学の neotenie という言葉です。「幼態成熟」と訳すのでしょうか。昆虫とか魚では、生まれてまったく親なし仲間なしで、すぐさも一匹の生物として活動して生きてゆきます。ところが高等動物の人間は、生まれてから一年ぐらゐまで子宮外胎児として全部世話してもらい、一人前になるまで20年もかかります。つまり、他の動物なら胎内でとくにすませてしまう発達過程を生後やたらに永くかかってすました上、やっと大人になるのです。だからこそ、この期間を利用し、さまざまなことを習い覚えて人間文化を形成してきたわけです。

ところが、現代文明では、古来人間が練習して修得しなければならなかった技術を覚えなくていいようにしています。企業や機械がみんなやってくれるので、人間は幼態つまりオトナになるための苦勞をしなくてもすむようになっているのです。“食”や“衣”のことは、前述しました。いま子供のはいている靴ひもつきの靴には、チャックがついていてこれを開閉して靴をはいたり脱いだりしています。靴のひもを結ぶことも覚えなくていいようにしているのです。ひもは、かざりでしかないのです。

人間を、このように幼態で甘んじさせている現代文明は、危険です。目先の面白さで喜ばせていて、自分で作ったり工夫したりさせない風潮は、地球上に何かおこったら、あたふた自滅する他ない人間をつくりだすからです。こうした風潮へのプロテストとして、私は、ただの長方形にすぎない布を、いかに人類の文化が、見事にファッションブルに美しく粧ったかを、お目にかけます。インドのサリー、ローマのトーガ、東

南アジアのサロン……などです。今回大会に御出席の方々にまわっていただきました。見事ですね、美しいですね。縫製しなくてもこうした美をつくり出せるのも、人間の文化なのです。

(1984年9月11日受付)